第１回別府市福祉サービス事業あり方検討委員会　議事録

令和元年度　第１回　議事録概要版

■開催日時　令和元年７月３１日（水）　９：３０～１１：１０

■開催場所　別府市役所　５Ｆ大会議室

■出席委員　福谷委員、中山委員、高橋委員、　林 委員、佐藤委員、笠木委員、田中委員
大塚委員、安東委員、釜堀委員、中西委員　１１名
■事 務 局　寺山福祉政策課長、入田、平松、安西
■関 係 課　猪股健康づくり推進課長、月輪子育て支援課長、河村ひと・くらし支援課長
大野障害福祉課長、阿南高齢者福祉課長、安部財政課長
■傍 聴 者　１名
■報道関係　２社
■会 次 第　１．委員委嘱状交付
２．副市長あいさつ
３．委員会開会
４．委員長・副委員長選任
５．議事
６．その他
７．閉会

■会議資料　【資料１】　第１回別府市福祉サービス事業あり方検討委員会　次第
【資料２】　第１回別府市福祉サービス事業あり方検討委員会　会場配席図
【資料３】　別府市福祉サービス事業あり方検討委員会　第１回委員会資料
【資料４】　令和元年度　別府市福祉保健部　事業一覧

１．　委員委嘱状交付

２．　副市長あいさつ

３．　委員会開会

４．　委員長・副委員長選任

委員長に福谷委員を、副委員長に釜堀委員を選出

５．　議事

【委員長】　それでは、次第に沿って進める。

まず、「委員会の設置趣旨及び別府市の現況について」事務局より説明をお願いする。

【事務局】　【資料３】に基づき、委員会の設置趣旨及び本市の現況について説明

【委員長】　ただいまの事務局の説明に関し、ご意見、ご質問はないか。

【委　員】　経常収支比率の説明に関して、平成 28 年度・平成 29 年度は急激に上がっているという状況だが、ここら辺に関して、もう少し詳しく説明いただきたい。

【事務局】　平成 26 年度に消費税率が 8%に引き上げられ、国から交付される地方交付税が平成 27 年度に増えた。しかし、平成 28 年度からなくなったため地方交付税が減り、経常収支比率が上がった。

【関係課】　補足として、地方交付税が平成 27 年度で約 88 億円と一番のピークだった。平成 20 年度のリーマンショックで特別枠の加算があったが、平成 28 年度に優遇措置がなくなり、平成 27 年度と比較すると、平成 28 年度は 4 億円、平成 29 年度は 1 億 4,500 万円と大幅に減った。

一方、歳出面では、社会保障費が平成 27 年度と比較すると、平成 29 年度は約 20 億円増加している。

歳入・歳出の両面の要因により経常収支率が高止まりしている状況である。

【委員長】　他にご意見、ご質問はないか。
それでは次に、「各課の実施している事業について」説明をお願いする。

【関係課】　【資料 3】・【資料 4】を用いて、各課実施している事業について説明

【委員長】　ただいまの事務局の説明に関し、ご意見、ご質問はないか。

【委　員】　近年、障がいをお持ちの方の雇用の場が広がってきており、障害年金と併せ、ある程度所得が確保されてきたのではないかと感じている。
このような中、【資料４】P.3 の事業 No.3「重度心身障害者医療費助成事業」について、他の市町村と比べ過重な負担が発生していると見受けられる。所得に応じての負担、所得制限があってもいいのではないかと考えるが、見直しの検討を行ってはどうか。
また、【資料４】P.3 の事業 No.4「障害者福祉手当等支給事業」について、本来の目的は社会活動への参加や福祉の増進の実現であり、本来の目的に寄与する仕組みを考える必要があるのではないか。
さらに、【資料４】の事業一覧にはないが、先ほど説明があった「別府市優待入浴券交付事業」について、施設の維持管理が大変ということであれば、受益者が負担できるものであれば考える必要があるのではないか。

【委　員】　【資料４】P.10 の事業 No.11「敬老祝金支給事業」について、この事業ができたのは、おそらく戦後の平均寿命が 60 歳前後の頃ではないか。今は平均寿命が 80 歳を過ぎている。70 歳から５年ごとに１万円支給というのは、今の時代に合わないのではないかと思う。これを、健康寿命を伸ばす活動資金に使えるような運用を考えてもらいたい。
また、【資料４】P.12 の事業 No.32「高齢者優待入浴券交付事業」について、50 円なり 100 円なり取るなどに変えないと行き詰まるのではないか。

【委　員】　【資料４】P. 3 の事業 No. 4 「障害者福祉手当等支給事業」について、利用者の方からも、タクシー券を作るにも手間とか通信費とか色々なものがかかると思うので、そういう無駄なことはせず、福祉手当は、福祉手当としてそのまま支払うのが良いのではないかと意見がある。

【委員長】　他にご意見、ご質問はないか。
　それでは次に、「委員会で検討する事業について」考えていく。
　先ほど説明のあった委員会設立の趣旨等を考えると、１６０を超える事業の中から検討していくべき事業を選択しなければならない。委員の皆様から検討したほうがよいと思われる事業を提案いただきたい。
　今までの協議で、委員からご意見があったものは、【資料４】P.３の事業 No.３「重度心身障害者医療費助成事業」、【資料４】P.３の事業 No.４「障害者福祉手当等支給事業」、【資料４】P.10 の事業 No.11「敬老祝金支給事業」、【資料４】P.12 の事業 No.31「高齢者いきいき健康づくり 75」、【資料４】P.12 の事業 No.32「高齢者優待入浴券交付事業」、事業一覧にはないが「別府市優待入浴券交付事業」といったところか。
　これらを含め、いくつか問題ある事業、検討していくべき事業を委員の方々から選出していただいて、10 項目前後に絞りたい。

【委　員】　【資料４】P.10 の事業 No.10「地区敬老行事支援事業」について、交付金をいただいて町内で試算しないと敬老行事が実施できないが、各自治会で交付金の趣旨に合致した事業が行われているのか、担当の課の方に実情調査していただいて、その結果で考え、検討すべき。

【委員長】　実態をよく見て、果たしてこれが本来の姿なのか、あるいはもっと上手いやり方がないか検討してみる必要がある。

【委　員】　先ほど話があったように、少子高齢化のスピードが速いということで、生活に最低限必要なことは実施していきながら、少し贅沢な部分について削れる分は削っていかないと、もう財政が追いつかないのではないかと思う。
　別府市でも子どもの数がかなり減っており、支える側を今後増やしていくかということを深刻に考えないとかなり厳しいのではないかと思う。

【委員長】　福祉事業を持続可能なものにどうやって方向を切り替えていくか、という難しさが出てくる。そのことについて、積極的な議論をしなければならない。

【委員長】　それでは、ただいま提案のありました７事業について、検討していくということでよろしいか。

【委　員】　異議なし

【委員長】　それでは、ただいま提案のありました７事業について、検討事業とする。
　また、関係課から本委員会で検討してほしい事業が他にあるか。

【関係課】　【資料４】P.11 の事業 No.19「別府市単位老人クラブ補助金」を支給しているが、会員数が少なくなっている現状が問題視されていることから、あり方についてご検討いただきたい。
　また、【資料４】P.11 の事業 No.25「ひとまもり・おでかけ支援事業」のバス回数券は、今年本格実施し、あり方自体に様々な意見を聞いているが、本委員会でもご意見いただきたい。

【委員長】　ただいま、関係課から事業の候補とその理由についての提案があった。委員の皆様、関係課からの提案について、ご意見、ご質問はないか。

【委　員】　特になし

【委員長】　それでは、関係課から提案のあった事業について、検討事業とすることでよろしいか。

【委　員】　異議なし

【委員長】　それでは、関係課から提案のあった事業について、検討事業とする。
　次に委員会の日程について、事務局より日程案の提案をお願いする。

【事務局】　【資料３】に基づき、今後のスケジュールについて説明

【委員長】　今後の会議の日程については、事務局提案のとおり進めていきたいと思うが、よろしいか。

【委　員】　異議なし

【委員長】　それでは、事務局提案のとおり進めていく。
　本日の協議の中で、追加の意見があったら事務局の方へ連絡いただきたい。
　また、次回以降の委員会で検討する事業の順番については、私の方に一任いただきたい。

【委　員】　異議なし

【委員長】　今後の日程においては、やむを得ず欠席の方もいらっしゃると思うが、可能な限り出席をお願いしたい。

６．　その他

【委員長】　最後に「その他」について、何かないか。

【委　員】　特になし

７．　閉会

【委員長】　以上をもって、第１回別府市福祉サービス事業あり方検討委員会を終了する。